

間違いやすい貝の比較・標本づくりについて



1) マガキとナミマガシワ



マガキ
C の時代

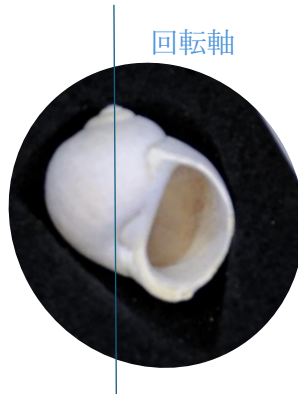


ナミマガシワ
A の時代

ナミマガシワは薄（うす）くて、キラキラ光っています。輪郭（りんかく：まわりの形）がはっきりしません。

2) ツメタガイとハナノツメタ、エゾタマガイ

ツメタガイに似た化石は3種類あります。



ツメタガイ

大きいもので5 c m

色が茶色ければC

白色だとAかBの時代

ハナノツメタ

大きくても3 c m

回転軸（かいてんじく）に対してツメタガイより幅（はば）が狭（せま）く見える

AかBの時代

エゾタマガイ

大きくても4 c m

開いた口を下にすると頂点（ちょうてん）が真上（まうえ）に来る

AかBの時代

自分がひろった貝を見て、どの貝か調べてみてください。

3) 細長い巻貝

細長い巻貝は、以下を見比べてください。



千葉県立中央博物館の写真資料から巻貝の部分をぬきだしました。

色や、細さ、もようがちがうので、どの貝か見比べてください。

カッコの中の記号が時代です。

・追加説明

1) バイの破片 (はへん)



このような形の化石を拾った人がいました。

この破片は バイ の一部でした。A の時代です。

バイ

2) 二枚貝の破片（はへん）

このような形の二枚貝の破片をひろった人が多くいました。



ホンビノスガイ
外来種（がいらいしゅ） C時代



カガミガイ
ホンビノスより薄く、小さい C時代

裏側（うらがわ）が紫色（むらさきいろ）であれば ウチムラサキ C時代です。



ウチムラサキ Wikipedia より

中に、現代の貝としてはあまりに硬いものがあつたので、B時代かA時代かもしれません。
はっきりしません。

ただし、ホンビノスガイは絶対にC時代です。（日本に持ち込まれた年代から）

3) 標本（ひょうほん）づくり

せっかく、化石をひろったので、標本を作ってみましょう。

① 洗（あら）う

海水につかっていたので、多めの水を入れた洗面器（せんめんき）などに、ひろった貝を1晩（ひとばん）つけて、塩抜（しおぬ）きをします。

1晩たったら、1回水を変えて、もう1日、水につける。

② かわかす

ぬれたままで箱にしまうとカビがはえてしまうので、完全に乾（かわ）くまで新聞紙などの上でかわかします。

晴れた日にうらおもてかわかせるといいですね。

③ 箱に入れる

ダイソーなどの100円ショップにパーツケースを売っています。



20個入るもの15個の物などいろいろありますので、入れる化石の大きさを考えて、入れるといいと思います。

たくさんひろった人は、A,B,Cのそれぞれの時代で1箱にするといいでしょう。

それほど個数がない人は、ひと箱を横や、たてで同じ時代のものをひとまとめにしてわかるように区切ってもいいでしょう。

④ 名前のシールをはる

化石の名前がわかれば、それぞれの化石の枠（わく）の中に名前のシールなどを貼りましょう。

箱の表面には採取（さいしゅ）した場所：幕張の浜（まくはりのはま）

採取した日：2024年11月16日

を書くか、シールで貼りましょう。

これで、りっぱな標本箱（ひょうほんばこ）です。ここまでやっておくと、長く、かざっておけます。

4) 図鑑（ずかん）

せっかく、化石を持ち帰ることができたので、名前を知りたいだろうと思います。
資料にあればいいですが、資料にない場合はぜひ、図鑑を調べてみてください。

おすすめは、

「くらべてわかる 貝殻（かいがら）」黒住耐二、山と溪谷社 です。



皆さんが見ていた、千葉県立中央博物館の資料を作ってくださった先生のご本です。